

教科	保健体育	学年	第2学年
----	------	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
保健編3 傷害の防止	8	○傷害の発生要因及びその防止について、課題を発見し、その解決を目指した学習に主体的に取り組む、理解できるようにする。	○交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因、交通事故などによる傷害の防止、然災害による傷害の防止、応急手当の意義と実際について理解し、心肺蘇生法などの技能を身につけている。	○傷害の防止に関わる事象や情報から自他の課題を発見し、危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、それらを他者に伝えたり、表したりしている。	○傷害の防止について関心をもち、主体的に学習の進め方を工夫・調整し、粘り強く学習に取り組もうとしている。
保健編1章 健康な生活と疾病の予防②	9	○健康な生活と生活習慣病などの予防及び喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、課題を発見し、その解決を目指した学習に主体的に取り組む、理解できるようにする。	○健康な生活と生活習慣病などの予防及び喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、理解している。	○健康な生活と生活習慣病などの予防及び喫煙、飲酒、薬物乱用と健康に関わる事象や情報を基に課題を発見し、疾病にかかるリスクを軽減したり、生活の質を高めたりする視点から解決を目指して科学的に思考・判断し、それらを他者に伝えたり、表したりしている。	○健康な生活と生活習慣病などの予防及び喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について関心をもち、主体的に学習の進め方を工夫・調整し、自他の健康の保持増進や回復についての学習に粘り強く取り組もうとしている。
体育編2章 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方	3	○運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、課題を発見し、その解決を目指した学習に主体的に取り組む、理解できるようにする。	○運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、理解している。	○運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、それらを他者に伝えたり、表したりしている。	○運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について関心をもち、主体的に学習の進め方を工夫・調整し、粘り強く学習に取り組もうとしている。

A体づくり運動	7	○体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法を理解する。 ○目的に適した運動を身につけ、組み合わせることができるようにする。 ○自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えるようにことができるようにする。	<知識> ○体づくり運動の意義には、心と体をほぐし、体を動かす楽しさや心地よさを味わう意義があることについて言ったり書き出したりしている。 ○体づくり運動の意義には、体の柔らかさ巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高める意義があることについて言ったり書き出したりしている。 ○「体ほぐしの運動」には、「心と体の関係や心身の状態に気付く」、「仲間と積極的に関わり合う」というねらいに応じた行い方があることについて学習した具体例を挙げている。 ○体の動きを高めるには、安全で合理的に高める行い方があることについて言ったり書き出したりしている。 ○体の動きを高めるには、適切な強度、時間、回数、頻度などを考慮して組み合わせる方法があることについて学習した具体例を挙げている。 ○運動の組合せ方には、効率のよい組合せとバランスのよい組合せがあることについて学習した具体例を挙げている。 <運動> ○のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行うことを通して、気付いたり関わり合ったりすることができる。 ○リズムに乗って心が弾むような運動を行うことを通して、気付いたり関わり合ったりすることができる。	○体ほぐしの運動で、「心と体の関係や心身の状態に気付く」、「仲間と積極的に関わり合う」ことを踏まえてねらいに応じた運動を選んでいる。 ○体の動きを高めるために、自己の課題に応じた運動を選んでいる。 ○学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ○仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、仲間との関わり方を見付けている。 ○体力の程度や性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための運動を見付け仲間に伝えている。	○体づくり運動の学習に積極的に取り組もうとしている。 ○仲間の補助をしたり助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ○一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとしている。 ○ねらいに応じた行い方などについての話合いに参加しようとしている。 ○健康・安全に留意している。
---------	---	---	---	---	--

		○緊張したり緊張を解いて脱力したりする運動を行うことを通して、気付いたり関わり合ったりすることができる。 ○いろいろな条件で、歩いたり走ったり跳びはねたりする運動を行うことを通して気付いたり関わり合ったりすることができる。 仲間と動きを合わせたり、対応したりする運動を行うことを通して、気付いたり関わり合ったりすることができる。 ○仲間と協力して課題を達成するなど、集団で挑戦するような運動を行うことを通して、気付いたり関わり合ったりすることができる。 大きくリズムカルに全身や体の各部位を振ったり、回したり、ねじったり、曲げ伸ばしたりすることができる。 ○体の各部位をゆっくり伸展し、そのままの状態で約10 秒間維持することができる。 いろいろなフォームで様々な用具を用いて、タイミングよく跳んだり転がしたりすることができる。 ○大きな動作で、ボールなどの用具を、力を調整して投げたり受けたりすることができる。	
--	--	--	--

B器械運動 (マット・跳び箱運動)	7	○技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解する。 ○技がよりよくできるようにする。その際、技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 ○自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○器械運動の学習に積極的に取り組み、よい演技を認めることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配ることができるようにする。	<知識> ○器械運動には多くの「技」があり、これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことについて理解している。 ○器械運動は、種目に応じて多くの「技」があり、技の出来映えを競うことを楽しむ運動として多くの人々に親しまれてきた成り立ちがあることについて理解している。 ○技の名称は、運動の基本形態を示す名称と、運動の経過における課題を示す名称によって名づけられていることについて言ったり、書き出したりしている。 ○技の行い方は技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあることについて理解している。 ○器械運動は、それぞれの種目や系などにより主として高まる体力要素が異なることについて学習した具体例を挙げている。 ○発表会には、学習の段階に応じたねらいや行い方があることについて理解している。 <技能> ・マット運動 ●接転技群(背中をマットに接して回転する) ○体をマットに順々に接触させて回転するための動き方や回転力を高めるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回ることができる。 ○開始姿勢や終末姿勢、組合せの動きや手の着き方などの条件を変えて回ることができ	○提示された動きのポイントやつまづきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ○提供された練習方法から、自己の課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選んでいる。 ○学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ○仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ○体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や発表を行う方法を見付け、仲間に伝えている。	○器械運動の学習に積極的に取り組もうとしている。 ○よい技や演技に称賛の声をかけるなど、仲間の努力を認めようとしている。 ○練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ○一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。 ○健康・安全に留意している。
------------------------------	----------	---	--	--	--

		る。 ○学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回ることができる。 ●ほん転技群(手や足の支えで回転する) ○全身を支えたり突き放したりするための着手の仕方、回転力を高めるための動き方、起き上がりやすくするための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回転することができる。 ○開始姿勢や終末姿勢、手の着き方や組合せの動きなどの条件を変えて回転することができる。 ○学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回転することができる。 ・跳び箱運動 ●切り返し跳びグループ(跳び箱上に支持して回転方向を切り替えて跳び越す) ○踏み切りから上体を前方に振り込みながら着手する動き方、突き放しによって直立体勢に戻して着地するための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして跳び越すことができる。 ○着手位置、姿勢などの条件を変えて跳び越すことができる。 ○学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで跳び越すことができる。 ●回転跳びグループ(跳び箱上を回転しながら跳び越す) ○着手後も前方に回転するための勢いを生み出す踏み切りの動き方、突き放しによって空中に飛び出して着地するための動き方で、基本	
--	--	---	--

○陸上競技 (短距離走、長距離走、ハードル走、走り幅跳び、走り高跳び)	22	○記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方などを理解する。 ○基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができるようにする。 ○動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○陸上競技の学習に積極的に取り組み、ルールやマナーを守ることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配ることができるようにする。	<知識> ○自己の記録に挑戦したり、競争したりする楽しさや喜びを味わうことができることを理解している。 ○古代ギリシアのオリンピック競技やオリンピック・パラリンピック競技大会において主要な競技として発展した成り立ちがあることを理解している。 ○陸上競技の各種目において用いられる技術の名称があり、それぞれの技術で動きのポイントがあることについて、学習した具体例をあげている。 ○陸上競技は、それぞれの種目で主として高まる体力要素が異なることについて、言ったり書きだしたりしている。 <技能> ●短距離走 ○クラウチングスタートから徐々に上体を起こしていき加速することができる。 ○自己に合ったピッチとストライドで速く走ることができる。 ○リレーでは、次走者がスタートするタイミングやバトンを受け渡すタイミングを合わせることができる。 ●長距離走 ○腕に余分な力を入れないで、リラックスして走ることができる。 ○自己に合ったピッチとストライドで、上下動の少ない動きで走ることができる。 ○ペースを一定にして走ることができる。	○提示された動きのポイントやつまづきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ○提供された練習方法から、自己の課題に応じて、動きの習得に適した練習方法を選んでいる。 ○練習や競争する場面で、最善を尽くす、勝敗を受け入れるなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。 ○学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ○体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や競争を行う方法を見付け、仲間に伝えている。	○陸上競技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ○勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとしている。 ○具等の準備や後片付け、記録などの分担した役割を果たそうとしている。 ○一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。 ○健康・安全に留意している。
--	-----------	--	--	--	---

		○遠くから踏み切り、勢いよくハードルを走り越すことができる。 ●ハードル走 ○抜き脚の膝を折りたたんで前に運ぶなどの動作でハードルを越すことができる。 ○インターバルを3又は5歩でリズムカルに走ることができる。 ●走り幅跳び ○自己に適した距離、又は歩数の助走をすることができる。 ○踏切線に足を合わせて踏み切ることができる。 ○かがみ跳びなどの空間動作からの流れの中で着地することができる。 ●走り化跳び ・リズムカルな助走から力強い踏み切りに移ることができる。 ・跳躍の頂点とバーの位置が合うように、自己に合った踏切位置で踏み切ることができる。 ・脚と腕のタイミングを合わせて踏み切り、大	
--	--	---	--

D水泳 (クロール・平泳ぎ・背泳ぎ)	11	○記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行いなどを理解し、泳法を身に付けることができるようにする。 ○泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○水泳の学習に積極的に取り組み、分担した役割を果たすことや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めることなどに意欲をもち、健康や水中の安全確保に気を配ることができるようにする。	<知識> ○水泳は、泳法を身に付け、続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動であることを理解している。 ○水泳は、近代オリンピック・パラリンピック競技大会において主要な競技として発展した成り立ちがあることを理解している。 ○水泳の各種目において用いられる技術の名称や運動局面の名称があり、それぞれの技術や局面で、動きを高めるための技術的なポイントがあることについて、学習した具体例をあげている。 ○水泳は、それぞれの種目で主として高まる体力要素が異なることについて、言ったり書いたりしている。 <技能> ●クロール ○一定のリズムで強いキックを打つことができる。 ○水中で肘を曲げて腕全体で水をキャッチし、S字やI字を描くようにして水をかくことができる。 ○プルとキック、ローリングの動作に合わせて横向きで呼吸をすることができる。 ●平泳ぎ ○蹴り終わりで長く伸びるキックをすることができる。 ○より前で、両手で逆ハート型を描くように水をかくことができる。	提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えようとしている。 ・提供された練習方法から、自己の課題に応じて、泳法の習得に適した練習方法を選んでいる。 ○学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ○仲間と協力する場で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ○体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や競争を行う方法を見付け、仲間に伝えている。	○水泳の学習に積極的に取り組もうとしている。 ○勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとしている。 ○用具等の準備や後片付け、計測などの分担した役割を果たそうとしている。 ○一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。 ○水の安全に関する事故防止の心得を遵守するなど、健康・安全に留意している。
-----------------------	----	---	--	---	---

		○プルのかき終わりに合わせて顔を水面上に出して息を吸い、キックの蹴り終わりに合わせて伸び(グライド)をとり進むことができる。 ●背泳ぎ ○両手を頭上で組んで、腰が「く」の字に曲がらないように背中を伸ばし、水平に浮いてキックをすることができる。 ○水中では、肘が肩の横で60～90 度程度曲がるようにしてかくことができる。 ○水面上の腕は、手と肘を高く伸ばした直線的な動きをすることができる。 ○呼吸は、プルとキックの動作に合わせて行うことができる。 ●スタート クロール、平泳ぎ、バタフライでは、水中で両足あるいは左右どちらかの足をプールの壁につけた姿勢から、スタートの合図と同時に顔を水中に沈め、抵抗の少ない流線型の姿勢として壁を蹴り泳ぎだすことができる。 ○背泳ぎでは、両手でプールの縁やスターティンググリップをつかんだ姿勢から、スタートの合図と同時に両手を前方に伸ばし、抵抗の少ない姿勢として壁を蹴り泳ぎだすことができる。	
--	--	---	--

E球技 (ゴール型・ネット型・ベースボール型)		○勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解する。 ○基本的なボールや用具、バット操作と仲間と連携した動きで攻防を展開できるようにする。 ○攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○球技の学習に積極的に取り組み、作戦などについての話し合いに参加することや一人一人の違いに応じたプレイなどを認めることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配ることができるようにする。	<知識> ○球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ○学校で行う球技は近代になって開発され、今日では、オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われていることについて、言ったり書き出したりしている。 ○球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ○対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、学習した具体例を挙げている。 ○球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。 <技能> ●ゴール型 ○ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ○マークされていない味方にパスをき出すことができる。 ○得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ○パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。 ○ボールとゴールが同時に見える場所に立つ	○提示された動きのポイントやつまづきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ○提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ○学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ○練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。 ○仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ○仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。 ○体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。	○球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ○マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。 ○作戦などについての話し合いに参加しようとしている。 ○一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。 ○練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ○健康・安全に留意している。
------------------------------------	--	--	--	--	---

ことができる。

○パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。

○ボールを持っている相手をマークすることができる。

●ネット型

○サービスでは、ボールやラケットの中心付近で捉えることができる。

○ボールを返す方向にラケット面を向けて打つことができる。

○味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。

○相手側のコートの空いた場所にボールを返すことができる。

○テイクバックをとって肩より高い位置からボールを打ち込むことができる。

○相手の打球に備えた準備姿勢をとることができる。

○プレイを開始するときは、各ポジションの定位置に戻るることができる。

○ボールを打ったり受けたりした後、ボールや相手に正対することができる。

●ベースボール型

○投球の方向と平行に立ち、肩越しにバットを構えることができる。

○地面と水平になるようにバットを振り抜くことができる。

○スピードを落とさずに、タイミングを合わせて塁を駆け抜けることができる。

○打球の状況によって塁を進んだり戻ったりすることができる。

○ボールの正面に回り込んで、緩い打球を捕ることができる。

○投げる腕を後方に引きながら投げ手と反対側の足を踏み出し、体重を移動させながら、大きな動作でねらった方向にボールを投げるることができる。

○守備位置から塁上へ移動して、味方からの送球を受けることができる。

○決められた守備位置に繰り返し立ち、準備姿勢をとることができる。

・各ポジションの役割に応じて、ベースカバーやバックアップの基本的な動きをすること

F武道 (柔道)	6	○技ができる楽しさや喜びを味わい、武道の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解する。 ○基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開することができるようにする。 ○攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○武道の学習に積極的に取り組み、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなど意欲をもち、じ技を用いないなど健康や安全に気を配ることができるようにする。	<知識> ○武道は对人的な技能を基にした運動で、我が国固有の文化であることを理解している。 ○武道には技能の習得を通して、人間形成を図るという伝統的な考え方があることを理解している。 ○武道の技には名称があり、それぞれの技を身に付けるための技術的なポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ○武道はそれぞれの種目で、主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。 ・○試合の行い方には、ごく簡易な試合におけるルール、審判及び運営の仕方があることを理解している。 <技能> ●柔道 ○姿勢と組み方では、相手の動きに応じやすい自然体で組むことができる。 ○崩しでは、相手の動きに応じて相手の体勢を不安定にし、技をかけやすい状態をつくることができる。 ○進退動作では、相手の動きに応じたすり足、歩み足及び継ぎ足で、体の移動をすることができる。 ○横受け身では、体を横に向け下側の脚を前方に、上側の脚を後方にして、両脚と一方の腕全体で畳を強くたたくことができる。 ○後ろ受け身では、あごを引き、頭をあげ、両方の腕全体で畳を強くたたくことができる。	○提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ○提供された練習方法から、自己の課題に応じた練習方法を選んでいる。 ○学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ○練習の場面で、仲間の伝統的な所作等のよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。 ○体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や簡易な試合を行う方法を見付け、仲間に伝えている。	○武道の学習に積極的に取り組もうとしている。 ○相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 ○用具等の準備や後片付け、審判などの分担した役割を果たそうとしている。 ○一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。 ○禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。
-------------	---	--	---	--	---

		○前回り受け身では、前方へ体を回転させ、背中側面が畳に着く瞬間に、片方の腕と両脚で畳を強くたたくことができる。 ○取は膝車をかけて投げ、受は受け身をとることができる。 ○取は支え釣り込み足をかけて投げ、受は受け身をとることができる。 ○取は体落としをかけて投げ、受は受け身をとることができる。 ○取は大腰をかけて投げ、受は受け身をとることができる。 ○取は大外刈りをかけて投げ、受は受け身をとることができる。 ○取は、「抑え込みの条件」を満たして相手を抑えることができる。 ○取はけさ固めや横四方固めで相手を抑えることができる。 ○受はけさ固めや横四方固めで抑えられた状態から、相手を体側や頭方向に返すことがで	
--	--	--	--

Gダンス (現代的なリズムのダンス)	5	○感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や由来、表現の仕方などを理解する。 ○イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流ができるようにする。 ○表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○ダンスの学習に積極的に取り組み、仲間の学習を援助することや一人一人の違いに応じた表現や役割を認めることなどに意欲をち、健康や安全に気を配ることができるようにする。	<知識> ○ダンスは、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることを楽しさや喜びを味わうことができることにについて言ったり書きだしたりしている。 ○ダンスは、様々な文化の影響を受け発展してきたことを理解している。 ○それぞれのダンスには、表現の仕方に違いがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ○ダンスはリズムカルな全身の動きに関連した体力が高まることについて、学習した具体例を挙げている。 <技能> ●現代的なリズムのダンス ○自然な弾みやスイングなどの動きで気持ちよく音楽のビートに乗れるように、簡単な繰り返しのリズムで踊ることができる。 ○軽快なリズムに乗って弾みながら、揺れる、回る、ステップを踏んで手をたたき、ストップを入れるなどリズムを捉えて自由に踊ったり、相手の動きに合わせてたりずらしたり、手をつなぐなど相手と対応しながら踊ることができる。 ○シンコペーションやアフタービート、休止や倍速など、リズムに変化を付けて踊ることができる。 ○短い動きを繰り返す、対立する動きを組み合わせるダイナミックなアクセントを加えるなどして、リズムに乗って続けて踊ることができる。	○提示された事例を参考に、自分の興味や関心に合ったテーマや踊りを設定している。 ○提示された踊りのポイントやつまづきの事例を参考に、仲間やグループの課題や出来映えを伝えている。 ○提供されたテーマや表現の仕方から、自己やグループの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ○学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ○仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、グループへの関わり方を見付けている。 ○体力の程度や性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための表現や交流を行う方法を見付け、仲間に伝えている。	○ダンスの学習に積極的に取り組もうとしている。 ○仲間の手助けをしたり助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ○簡単な作品創作などについての話合いに参加しようとしている。 ○一人一人の違いに応じた表現や交流の仕方などを認めようとする。 ○健康・安全に留意している。
-------------------------------	----------	---	--	--	---

※天候などによっては変更もありうる。